

# 冬場の給湯機器(配管)の凍結予防について

## (エコキュート/電気温水器の場合)

冬場は暖かい地域でも機器や配管内の水が凍結し、破損する恐れがあります。  
このような破損を予防するため、以下の必要な処置を行ってください。

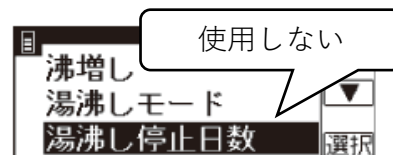
### 1.電気のブレーカーは落とさない・漏電遮断器を切らない

外気温が下がると凍結予防ヒーターが自動的に機器内を保温して凍結予防を行います。

### 2.「湯沸かし停止日数」の設定を行わない。

旅行などでお湯が必要でない場合、「湯沸かし停止日数」の機能により湯沸かしを停止する機能がありますが、凍結予防のためにはこの機能を使用しないでください。

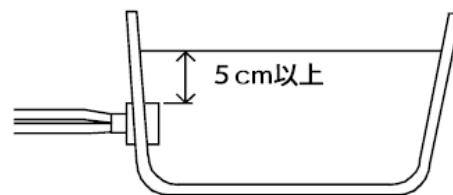
※機種によっては「わき上げ停止日数」と表記されているものもあります。



### 3.浴槽内に水を残す。(『自動追いだき機能』があるタイプのみ)

浴槽内に循環口から約5cm以上水を残してください。

外気温が下がると自動的にポンプで浴槽の水を循環させて凍結を予防します。



### 4.市販の凍結防止ヒーターが設置されている場合

配管に市販の凍結防止ヒーターを巻き、通電して凍結を予防します。

寒冷時になる前に凍結防止ヒーターのプラグをコンセントに差し込んでください。

凍結防止ヒーターが施工されているか不明なときはお買い上げの販売店（施工店）へご確認ください。

### 5.凍結してしまった場合

外気温が上がって自然に解凍するまでお待ちください。

※給湯機器や配管を温めるために、熱湯をかけるのは控えてください。

機器や配管の破裂につながる恐れがあります。

自然解凍で復旧できない場合は、販売店（施工店）へ点検依頼をお願いします。

# 冬場の給湯機器(配管)の凍結予防について

## (ガス給湯器/石油給湯機の場合)

冬場は暖かい地域でも機器や配管内の水が凍結し、破損する恐れがあります。  
このような破損を予防するため、以下の必要な処置を行ってください。

### 1.電気のブレーカーは落とさない・電源プラグはコンセントから抜かない。

外気温が下がると凍結予防ヒーターが自動的に機器内を保温して凍結予防を行います。

※コントローラが「切」の状態でも働きます。



### 2.給湯栓から水を流す。

①コントローラの運転スイッチを「切」にしてください。

②給湯栓を少し開けて少量の水「1分間に400cc程度」を流したままにしてください。

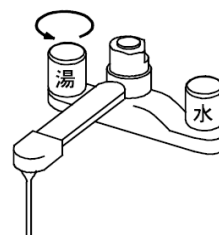
※給湯栓がサーモ付混合水栓、シングルレバー混合水栓の場合は、

給湯栓のレバーを最高温度側にしてください。

(やけどの恐れがありますので、再使用時の温度設定には十分ご注意ください。)

③流量が不安定になることがありますので、約30分後に再度流量を確認してください。

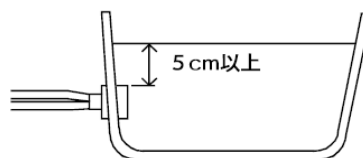
この処置により、給湯配管の凍結予防になります。



### 3.浴槽内に水を残す。(『自動追いき機能』があるタイプのみ)

浴槽内に循環口から約5cm以上水を残してください。

外気温が下がると自動的にポンプで浴槽の水を循環させて凍結を予防します。



### 4.市販の凍結防止ヒーターが設置されている場合

配管に市販の凍結防止ヒーターを巻き、通電して凍結を予防します。

寒冷時になる前に凍結防止ヒーターのプラグをコンセントに差し込んでください。

凍結防止ヒーターが施工されているか不明なときはお買い上げの販売店(施工店)へご確認ください。

### 5.凍結してしまった場合

外気温が上がって自然に解凍するまでお待ちください。

※給湯機器や配管を温めるために、熱湯をかけるのは控えてください。

機器や配管の破裂につながる恐れがあります。

自然解凍で復旧できない場合は、販売店(施工店)へ点検依頼をお願いします。